

研究・調査報告書

報告書番号	担当
375	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Alcohol-use disorders. アルコール使用障害	
執筆者	
Schuckit MA.J.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Lancet. 2009 Feb 7;373(9662):492-501. Epub 2009 Jan 23.	
キーワード	
アルコール使用障害、診断、原因、リスク、治療	
要 旨	
<p>アルコール依存やアルコール乱用、有害飲酒は疾病や死亡の大きな原因となる。アルコール使用障害はうつ、重篤な不安症、不眠、自殺、薬物乱用などとの関連が指摘されている。アルコールの持続的な大量摂取は循環器系、消化器系、免疫系に影響を及ぼし心疾患、脳卒中、癌、肝硬変などの疾病発症を早める。大量飲酒はまた軽度な前向き健忘、一過性認知障害、睡眠障害、末梢神経障害、消化器疾患などを引き起こし、赤血球生産能や骨密度を低下させ、また胎児アルコール症候群の原因となる。アルコール使用障害は、内科疾患や精神科疾患の評価と治療をいっそう複雑・困難なものにする。</p> <p>重篤な生理学的障害を引き起こしたり、生活の質・生活上の機能を常におびやかすような飲酒行動を有する人々を特定するために、アルコール依存症（アルコール使用障害よりさらに重篤な障害である）の標準的な診断基準を用いることができる。医療面接、質問票、血液検査あるいはこれらを組み合わせて用いることにより、臨床医はアルコール関連障害を常にスクリーニングするよう心がけておく必要がある。</p> <p>アルコール使用障害の原因として、アルコール使用障害のリスクに関連した環境因子、特定遺伝子（アルコール脱水素酵素やアルデヒド脱水素酵素などのアルコール代謝酵素関連遺伝子）の他に、脱抑制関連因子、アルコールへの低感度関連因子などが含まれる。</p> <p>アルコール使用障害の治療には、患者自らの状況を評価する手助けとなる動機付け面接（motivational interview）、より健康的な行動を患者に促すための短い介入、離脱症状に対処するための解毒プログラム、再発予防のための認知・行動療法、再発を抑制し渴望感を最小限にするための適切な薬剤の使用が含まれる。</p>	